

いいだ 市議会だより

No. 194

平成27.4.21

編集/広報広聴委員会 発行/飯田市議会 〒395-8501 長野県飯田市大久保町



第1回定例会開催 ②
提言に対する対応(行政評価) ④
ズバリ市政を問う(一般質問) ⑥ ⑦



新たな議場で開かれた初めての定例会

第1回定例会

平成27年度飯田市一般会計予算案など

85議案を可決又は同意

定例会のあらまし

平成27年第1回定例会を2月25日から3月20日まで24日間の会期で開催しました。

市長から、平成26年度飯田市一般会計補正予算（第7号）案、（第8号）案、平成27年度飯田市一般会計予算（案）など88件が提出されました。このうち3件は報告を受けたもので、そのほかの9件の人事案件及び定住自立圏における戸籍事務に係る議案14件は本会議で同意又は可決しました。これら以外の62件は、所管の委員会等で慎重な審査を経た後、いずれも本会議で原案のとおり可決しました。

市長提出議案のほかには、委員会から提出された議会議案について、条例案2件、意見書提出に係る議案1件を可決しました。

請願及び陳情については、それぞれ1件ずつ審議し、いずれも委員会審査のとおり不採択としました。

また、20人の議員が市政全般について一般質問を行いました。これについては6ページから紹介します。

議案に対する質疑と審査

62件の市長提出議案、請願及び陳情については総務、社会文教、産業建設の各常任委員会に付託され、集中的に審査しました。

委員会での審査の内容は、8ページからの常任委員会のページで紹介します。

本会議での討論

委員会における議案及び請願の審査結果に対し、本会議で次のような討論がありました。

議案第17号及び議案第68号

飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第68号 平成27年度飯田市介護保険特別会計予算（案）

条例改正及び予算案に反対

介護保険料の引き上げは被保険者の負担増となる。国、県の支援を求め、リニア中央新幹線の基金に充てるとしている予算を繰り入れるなど、ほかに財源の確保は可能であり、引き上げとする条例案及び予算案に反対。

条例改正及び予算案に賛成

低所得者には負担を軽減させるなどの配慮がされている。また、被保険者による相互扶助の制度であり、財政規律の面からも一般会計から

の法定外の繰り入れを行うことは適当でなく、条例案及び予算案に賛成。

議案第54号及び議案第65号

議案第54号 平成26年度飯田市一般会計補正予算（第8号）案

議案第65号 平成27年度飯田市一般会計予算（案）

予算案に反対

リニア中央新幹線に関する期待は大きいですが、交流人口増、経済的波及効果など期待どおりになるとは限らない。関連する予算は介護保険など市民生活優先の事業に充てるべきであり、反対。また、マイナンバー制度の実施は社会保障の給付削減及びプライバシーの侵害につながるものであり、この制度に関する予算に反対。

請願第1号

国に対し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、閣議決定に基づく法整備を行わないよう求める意見書を提出願いたい。

不採択との委員長報告に反対

日本は戦争放棄を宣言した憲法9条を持つ国として平和外交に徹するよう、住民の安全を守る立場から、地方議会としても政府に求めるべきであり、請願を採択すべき。

意見書の提出

総務委員会から「ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書の提出について」の議案が出され、これを可決し、国の関係機関に意見書を提出することになりました。

同意した人事(敬称略)

- 監査委員 北澤 福一
- 固定資産評価審査委員会委員 篠田 順
- 南部財産区管理委員 松下 実
- 中央財産区管理委員 奈良 祥夫

長期欠席議員の議員報酬の特例に関する条例を議決

第1回定例会において、議会運営委員会の提案で飯田市議会議員の議員報酬の特例に関する条例を議決しました。

議員には勤務時間や休日、欠勤という概念がありません。しかし、長期間議会活動に参加しないことは職責や市民の信頼の確保の点から問題があるので、そのような場合に議員報酬を減額する、というものです。

議会活動の欠席期間が90日を超えると減額となり、この4月1日以後の欠席期間を対象とすることとしています。

— 議会出前講座を実施 —

開かれた議会をめざし、議会に関する理解を深めてもらうための活動の一環として、小学校の要望に応じ、平成27年1月27日及び28日に飯田市立松尾小学校への出前講座(出前交流授業)を実施しました。



クラスのみなさんとそろっての記念撮影

議会からは、正副議長及び広報広聴委員会の委員合わせて10人が出席しました。

○長野原財産区管理委員

- 前澤 正信 今村 善治 大野 謙
- 今村 悦夫 熊谷 龍司 植田 文好
- 小嶋 智浩

○時又財産区管理委員

- 今村 茲康 小久保 喬 下平 善彦
- 伊藤 勝 杉本 久二 今村 明人

○桐林財産区管理委員

- 木下 富士人 中島 利夫 原 寛志

○駄科財産区管理委員

- 下平 英敏 牧之内 久夫
- 塩澤 正博 牧田 孝好

○山本区財産区管理委員

- 長田 昇 尾野 義夫 小林 徳郎
- 川手 稔員 下平 清 下平 孝雄
- 塩澤 隆
- 大澤 健次 土屋 隆男 牛山 實
- 鈴木 尚登 小澤 弘明

議員は交替で、6年生の4クラス130人に対し、1クラスごとに、議会の役割、議員の数、選挙の大切さ、飯田市のこと等の説明を行いました。説明の後、5、6人のグループごとに議員が2人ずつ加わり、議員個人の私的なことも含め、自由に質問の受け答えを行いました。

授業の終了後は一緒に給食を食べ、また、中には、踊りを披露してくれたり、一緒に踊ったりしたクラスもあり、交流を深めることができました。

児童からは、飯田市のこと、リニア中央新幹線のことなどを聞いて、議会のことが理解できた、選挙の大切さが分かった、将来飯田で暮らしたいと思うようになったなどの感想をいただきました。議会としては、目的について一定の成果があったと評価しており、また今後も要望があれば、このような取り組みを行いたいと考えています。

行政評価に基づく提言に対する市の対応

議会では、市が実施した平成25年度の施策及び事務事業について行政評価を行い、15の施策及び49の事業について平成26年9月18日に、市長に対し提言を行いました。

この提言に対し、市の執行機関から対応状況について27年3月の各常任委員会で報告がありました。

各常任委員会では、この報告を予算の審査に生かしています。提言及びそれに対する報告の主なものを紹介します。



議会からの提言	執行機関の考え方	事業規模	予算規模
<p>リニア推進事業 方向性：拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 組織体制の強化を図られたい。 ● 理事者の主体的なリーダーシップを更に発揮されたい。 ● リニア推進ロードマップの前向きな見直しを行われたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● リニア推進部と建設部の連携により、駅周辺整備をはじめとする関連事業を推進している。 ● 駅周辺整備の基本構想検討会議を理事者のリーダーシップのもとに進めている。 ● 常に市民との共創を念頭に、リニア時代を見据え、事務事業を整理する中で、見直しを行いながら進める。 	拡大	現状維持
<p>入札、契約業務 方向性：やり方改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 公契約条例について、地元、業者との合意形成を早急に行われたい。 ● 総合評価方式の件数が少なく、土木工事にくじ引きによる落札が多い点について改善されたい、など。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公契約条例の制定は、関係者との十分な意見交換を行いながら進める。 ● 総合評価落札方式がくじ引きの回避になることが分かったので、総合評価項目等の見直しを行い、改善策の研究を進める、など。 	現状維持	現状維持
<p>小中連携・一貫教育推進事業 方向性：拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 推進の成果を測る新たな指標の導入など、推進体制を整えつつ、積極的に推進されたい。 ● 子どもを育てている世代（PTA）の参画を検討されたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 各中学校区の取り組みの情報交換をする中で、より効果的な取り組みを研究し、推進していく。 ● 市全体の推進委員会に、PTA連合会及び保育園保護者会連合会の代表に参画いただいている。また、各中学校区に設けている推進委員会にも保護者に参画いただいている。 	現状維持	現状維持
<p>「南信州牛」ブランド推進事業 方向性：やり方改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域ブランドとして確立するためにもF1牛を外し、一定の肉質、量を確保する方策について、生産者団体等と協議を進められたい。 ● 事業の成果指標が事業の目的に対して適当でないため、改善を図られたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● ブランド価値を高めるため、和牛に限定したブランド構築について、生産量や流通等の課題も含め、関係者や協議会で検討を進めている。 ● アンケート調査による南信州牛の認知度を成果指標に追加した。 	現状維持	現状維持
<p>農業課合同事務所事業 方向性：廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> ● メリット・デメリットが明確でなく、年間500万円の支出は疑問である。 ● 市民サービスの観点から行政の対応は同じ場所で行われることが望ましい、など。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農家の利便性、農家支援の視点を基本にして農業振興を進めることが必要であり、当地域の大半の農家が組合員となっているJAとの合同事務所には意味がある。 ● 農産物のブランド化等JAと連携した事業を進めるうえで、現状では合同事務所を継続する。 ● JAの事務所建替えなどが具体化したときには改めて検討が必要。産業経済部の事務所のあり方も地方創生の取り組みの中で検討が必要になる。 	現状維持	現状維持

※農業課合同事務所事業については、執行機関の考え方を受け、リニア時代の農業行政など、将来に向けた飯田市の立ち位置を示したうえで引き続き方向性を検討されたいと産業建設委員会から要望しました。

議会報告会を起点とした政策づくり

26年10月に開催した議会報告会を通して、市民の皆さんから寄せられた248件の御意見、御要望等は、委員会等に振り分けて対応を検討し、各常任委員会において、検討する課題として次の事項を取り上げました。

委員会	取り上げた課題
総務委員会	・議会報告会の分科会のテーマ設定、運営方法について
社会文教委員会	・だれもが元気で長生きできるまちを目指して ・地域で子どもを育てるには
産業建設委員会	・遊休農地、耕作放棄地対策について ・市の観光施策について



議長から市長へ提言書を渡しました

総務委員会、産業建設委員会では、上記の課題を今後も検討事項としていくこととしました。社会文教委員会では上記の課題について検討し、議会全体の政策討論会を経て、3月20日に議会から市長及び教育委員会に対する提言を行いました。

政務活動費を用いた調査活動を報告

平成26年9月から27年2月までの間に政務活動費を活用して実施した各会派の調査研究の概要です。3月16日には、この調査活動に関する報告会を市役所委員会室で行いました。

■詳細は飯田市議会公式ウェブサイトを御覧ください。
<http://www.city.iida.lg.jp/site/assembly>

市民パワー

■実施日 11月5日(水)～7日(金)、2月19日(木)

■調査事項

- ・西日本のふるさと回帰志向と移住状況 (大阪市中央区)
- ・直方市公契約条例制定 (福岡県直方市)
- ・幼少時におけるテレビ・スマホ等による発達障害予防の取り組み (福岡県福岡市)
- ・日野市発達・教育支援センター「エール」視察 (東京都日野市)
- ・2015年地方財政セミナー (東京都江東区)

会派みらい

■実施日 11月10日(月)、1月21日(水)、22日(木)
2月12日(木)

■調査事項

- ・北陸新幹線駅周辺整備先進地視察 (富山県、新潟県)
- ・農業振興基本計画、農業バイオセンター視察 (静岡県浜松市)
- ・広域交流事業(リニアを見据えた飯田下伊那) (喬木村)

会派のぞみ

■実施日 9月24日(水)、25日(木)
2月12日(木)～14日(土)

■調査事項

- ・北陸新幹線 飯山駅の取り組み (飯山市)
- ・北陸新幹線 上越妙高駅建設の取り組み (新潟県上越市)
- ・北陸新幹線開業に向けた観光施策、コンパクトなまちづくり事業とシティプロモーション (富山県富山市)
- ・高知県(株)四万十ドラマ視察 (高知県四万十町)
- ・街路市の取り組み、民間による柔軟な運営で地域の居場所づくり(高知県高知市)
- ・神山プロジェクト (徳島県神山町)

日本共産党

■実施日 1月19日(月)～21日(水)

■調査事項

- ・三重県桑名市の地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組み
- ・ケアステーション陽だまり視察 (三重県桑名市)
- ・南丹市美山町における定住政策等の調査 (京都府南丹市)

公明党

■実施日 1月21日(水)～23日(金)

■調査事項

- ・「認知症高齢者徘徊対策」の取り組み (宮崎県宮崎市)
- ・雇用創出ゾーンと医療ゾーンの取り組み (宮崎県都城市)
- ・「学びの21世紀塾」の取り組み (大分県豊後高田市)

無会派

■実施日 10月16日(木)、17日(金)
1月19日(月)、20日(火)、2月26日(木)

■調査事項

- ・地方議会議員セミナー「地方分権と自治体議会」「自治体議会の運営と政策立案」
- ・地方議会議員セミナー「集権時代と自治体議会」「人口減少社会と自治体議会」
- ・地方議会議員セミナー「少子化社会と自治体議会」



3月16日の政務調査研究報告会

ズバリ 市政を問う

一般質問とは、市政全般にわたり市長をはじめ執行機関側に、事業の執行状況や将来的な方針などを質し、説明を求めるものです。第1回定例会での一般質問の概要を紹介いたします。(質問順) ※■は、他の質問項目

市長はコンパクトシティについてどのような考えをもっているか

吉川 秋利 議員(会派のぞみ)
他市にコンパクトシティ構想を検討し、取り組んでいる例があるが、市長はコンパクトシティについてどのような考えを持っているか。

A この地域におけるコンパクトシティは、何でも一箇所に集めるというものではない。中心拠点、地域拠点、交流拠点及び広域交通拠点がそれぞれ機能分担をして、有機的に連携するというものと考えている。

■高等教育機関の設置について
■リニア中央新幹線開通に向けての飯田市の考え方について

次期総合計画に向けた市長の思いは

竹村 圭史 議員(会派のぞみ)
Q 第5次基本構想基本計画の評価及び第5次基本構想基本計画推進委員会からの提言を踏まえたリニア時代の次期総合計画策定に向けた市長の思いは。

A 国における地方創生という考えは、飯田市が進めてきた取り組みと軌を一にするものである。こうした国の動きも把握しつつ、リニア時代に向けて当地域が地方の生活圏、経済圏の全国的なモデルとなるようにしたい。また、国土形成計画における当地域の役割が果たせるような次期総合計画としたい。

■県立武道館構想について

技能労働者の実態評価と対応策の検討は

原 和世 議員(会派みらい)
Q この地域における技能労働者の実態をどう把握し、評価しているか。関係事業者らと課題を共有し、業界任せにせず早期に対応策を検討すべきと考えるがどうか。

A 若年労働者の減少及び就業者の高齢化が進んでおり、対応を考えなくてはならない。関係者との意見交換は重要であり、技能労働者の育成のため、関係する団体、事業者、学校関係者などと解決策を見出していきたい。

■昨年の一般質問における提言及び指摘事項の検討状況は

急性期医療と地域医療の連携強化における市立病院の役割は

清水 可晴 議員(市民パワー)
Q 市立病院は高度急性期医療の機能を特に強化する必要があると考えるが、急性期医療と地域医療の連携強化において市立病院が果たすべき役割は何か。

A 市立病院においては、より高度な最新鋭の検査や治療を安全に提供すべきと考えている。そのためにも地域内の病院、診療所との役割分担及び連携は欠かせない。既に連携が進んでいる部分はあるが、さらなる連携の強化により地域医療支援病院としての役割を果たしていくべきと考えている。

■農地転用許可の権限移譲と農業・農村の活性化策について

キャリア教育をさらに充実、発展させるための検証と今後の展開は

山崎 昌伸 議員(無会派)

Q キャリア教育の成果を示す場である、「推進フォーラム」には、より多くの市民に参加していただくための工夫が必要であり、成果を検証する意味でも、かつてのジュニアリーダーとの交流や他地域との交流を採り入れては、と考えるがどうか。

A 27年度の第10回フォーラム開催を機に、これまでの取り組みを振り返り、ご指摘の事柄についても、キャリア教育推進協議会において議論の対象としたい。

車椅子で生活されている方への支援は

古川 仁 議員(日本共産党)

Q 飯田市において、車椅子で生活されている方に、その取得に際し具体的にどのような支援がなされているか。

A 車椅子取得の支援は、自立支援給付の制度の中で補装具給付サービスに位置付けられている。申請に基づいて購入費又は修理費を給付するもので、飯田市ではほとんどの方が自己負担なしで利用されている。また、利用者が身体や実生活の状況に応じた適切なものを選べる支援も行っている。

■飯田市の安全について

リニア中央新幹線とJR飯田線との連携の取り組みは

井坪 隆 議員(会派みらい)

Q リニア中央新幹線とJR飯田線の連携について、乗換駅の設置についての地元説明及び設置費用の負担といった具体的な取り組みをどのように進めるか。

A 乗換駅の設置については、地元の意向に十分配慮し、理解をいただく必要がある。具体的には来年度基本計画で整理していく。費用については、JR東海で積極

的に検討いただきたいが、駅の設置自体はまだ具体的でなく、今後の検討と考える。

■旧飯田工業高校の施設を活用した「サイエンスパーク」について

少子・人口減少社会における小中学校の配置は

福沢 清 議員(会派みらい)

Q 国から示された小中学校の配置についての手引は統廃合を進める趣旨とらえることができる。飯田市においては地域と学校の結びつきの観点から現状の配置がよいと考えるがどうか。

A 小中学校は災害時の避難場所であったり、地域の交流の場であったりと地域づくりと密接にかかわっている。手引は研究しなければならないが、現在の配置を大切にすべきとの認識は議員と同じである。

■地区防災計画について

地域おこし協力隊の拠点を設けてはどうか

木下 徳康 議員(会派のぞみ)

Q 地域おこし協力隊については、受入側及び隊員の認識不足により定着しない例があり、研修が必要と考える。隊員を増やす方向が示されている中、その研修のための拠点施設を山、里、街がそろった適地と考えられる飯田市の設置することについてどう考えるか。

A 地域おこし協力隊のための研修は大切なことと考えられる。指摘のとおり、飯田市は研修施設の設置には適地と考えられることから、研究していきたい。

飯田版総合戦略に人口目標を定める考えは

森本 政人 議員(市民パワー)

Q まち・ひと・しごと創生法により定めるべきとされている飯田版総合戦略に、

第5次基本構想で示しているような人口目標を定めることの考えはどうか。

A 地方版総合戦略の策定に際し、人口の現状分析、将来の推計等を示した人口ビジョンの策定が求められている。人口ビジョンに基づき総合戦略を定めることのために、細かい分析を加えて目標等を定めることになる。

■小規模小中学校の統廃合について

認知症初期支援チームの取り組み状況は

村松 まり子 議員(公明党)

Q 認知症に対する国家戦略を受けての飯田市における認知症初期集中支援チームの取り組み状況はどうか。

A 初期集中支援チームは、国から示された要綱によると医療、福祉それぞれの分野の専門職と認知症に関する研修を受けた医師の確保が必要とされている。今後、体制整備、関係機関との調整などを行い、早期設置に向けて検討したい。

■国の補正予算と新年度予算を受けた市の取り組みについて

防災事業について国、県に要請する姿勢は

湊 猛 議員(会派のぞみ)

Q 上村、南信濃の区域の多くが土砂災害防止法の警戒区域等に指定された。防災事業の国、県への要請を市は率先して先頭に立つて行うべきと考えるがどうか。

A 国、県に対しては、今までもハード整備を要請してきており、今後も強く求めていきたい。ソフト対策についても必要性を認識しており、住民にも理解をいただきたい。

■地域自治組織に対する助成について

飯田市が構想するサイエンスパークとはどのようなものか

湯澤 啓次 議員(会派のぞみ)

Q 全国のサイエンスパークの実情を踏まえ、飯田市が構想するサイエンスパークとはどのようなものか。

A 地域の価値観、触媒となる人(カタリスト)及び人的ネットワークの構築やマネジメントを担うプロの3つの要素が存在し、人と人をつないで化学反応を起こすネットワークがあるものと考えている。

■旧飯田工業高校の施設を「知と産業の集積拠点」とする構想について

障がい福祉計画(案)のサービスの数値目標は二一五に合っているか

小倉 高広 議員(日本共産党)

Q 第4期障がい福祉計画(案)では居宅介護など訪問を受けるサービスの数値目標が低い。利用が少ないとのことだが、要望に見合うものになっているか。

A サービスを提供している事業者が少ないことから利用が少なくなっている。周辺地域の事業者のサービスを利用していただくなどから、全体としては要望が充足できると認識している。

■第6期介護保険事業計画(案)について

子ども家庭応援センターにおける教育分野との連携は

木下 容子 議員(市民パワー)

Q 子ども家庭応援センターでは、保健福祉の分野だけでなく、教育分野との連携が欠かれない。他市では緊密な連携が見られるが、組織体制はどうか。

A 教育分野については、現在、教育委員会に配置している教育相談機能のうち、就学判断及び特別支援教育に係る相談員をセンターに配置することとしている。

これにより、児童の成長に応じた切れ目のない支援が強固になると期待している。

■被害が止まらない特殊詐欺への対策は

出生・子育てについてオーダーメイドのメールによる情報提供は

永井 一英 議員(公明党)

Q 子育て世代への情報提供について、出生・子育て応援メールといった子ども一人ひとりに合わせたオーダーメイドのサービスを導入してはどうか。

A 子育ての情報提供については、保健師や児童委員による面談によることを重視している。しかし、子育てが孤立しがちな環境にあることから、ニーズに合った今以上に市民が受け取りやすい形での情報提供について研究すべきだと認識している。

■暮らしと生命を守る安心安全で快適なまちづくりについて

後藤 莊一 議員(日本共産党)

Q 平成27年度予算案は、地域の厳しい経済状況下で、市民の暮らしを守る予算となっているか。

A 生活支援商品券及び子育て支援商品券の発行、子ども家庭応援センターの開設、3人目の保育利用者負担金のさらなる軽減、介護予防事業の充実その他の社会福祉関連予算の増額に努めた。また、居住環境の向上のため道路、河川等の維持管理費の増額など市民の暮らしと安全を守るための予算を確保した。

■地域経済活性化プログラムについて

障がい者福祉推進都市としての職員体制は

木下 克志 議員(会派のぞみ)

Q 飯田市は障がい者福祉推進都市の指定を受けているが、福祉を担う人的資源

の確保、充実等職員体制をどう考えるか。

A 福祉を担う人的資源は、全体的に不足しているのが現状。社会福祉審議会からも人材の確保、育成が大きな課題と提言を受けている。現在は、福祉事務所職員の在職年数を延ばしつつ対応しているが、今後は専門職化も考慮していく必要がある。

■首都機能のバックアップを当地域で担う構想はどうか

新井 信一郎 議員(会派のぞみ)

Q リニア中央新幹線を生かした首都機能のバックアップ機能をこの地域で担うという構想は考えられないか。

A リニア中央新幹線により知の創発拠点をつなぐナレッジ・リンクが形成され、人、モノ、情報の高度な連携が促進される中、災害リスクの軽減のため東京一極集中からの脱却が求められている。首都機能のバックアップは、国土形成計画の一翼を担う中部圏広域地方計画に盛り込んでもらうべく伊那谷自治体会議で検討が進んでいる。

■リニア新時代における農業政策ビジョンについて

清水 勇 議員(会派のぞみ)

Q 学輪IIDAが始まり5年目になるが、今までの検証と今後の取り組みはどうか。また、学輪IIDAとフィールドスタディを通じ期待していることは何か。

A 学輪IIDAにより大学研究者とのネットワークができ、当市の施策推進のための知見を得ることができている。学輪IIDA、フィールドスタディなど大学連携の狙いは、大学や研究者とのネットワークにより新しい大学的な機能を構築することである。地域の知と大学の知が融合することを通じて様々な取り組みを進めたい。

総務委員会

2月25日及び3月9日に委員会を開催しました。委員会での審査の様子を紹介します。

議案第14号

飯田市空家等の適正な管理及び活用に関する条例の制定について

案件の概要

空家等の適正な管理及び活用の促進並びに新たな空家の発生を予防しようとするもの

地区や市民との協議は

条例制定に当たって、地区や市民との協議など、どのように取り組んできたか。

A 市、市民、まちづくり委員会それぞれ責務を条例に定めるため、果たしてもらいたい役割を相談し、お願いしてきた。市政懇談会やまちづくり委員会連絡会、パブリックコメントでも意見をいただいていた。

権利と公益のバランスは

Q 空家における権利と公益のバランスをどう考えるか。

A 危険とされる空家にも様々な権利があり、対応は一律でない。まだ国のガイドラインが示されておらず、今後、それぞれのレベルに合った対応、取り組みを行うたい。

議案第54号

平成26年度飯田市一般会計補正予算(第8号)案

当初予算と補正予算の整理は

Q 地方創生に向けて先行的に実施する事業について、27年度当初予算と26年度補正予算をどのように整理するか。

A 地方創生について、国から27年度に取り組みものを前倒しで手を挙げるよう呼びかけがあり、市として対応する事業を選択し26年度補正予算として計上した。

事業創生人材育成事業の目的は

Q 事業創生人材育成事業の目的は、大学院大学を作ることか、人材を輩出することか。

A 26年度に実施した大学院大学設置可能性調査には人材育成を含んでいた。人材育成は引き続き行い、大学院大学設置については、人材育成と切り離し、時間をかけて検討していく。

議案第65号

平成27年度飯田市一般会計予算(案)

ふるさと納税の取り組み強化は

Q ふるさと納税への対応をこれまでどう変えたのか。

A 飯田市の特産品などを集めて、ふるさと納税の寄付者へ返礼品として届ける。これにより寄付の一部を地域に還元するとともに飯田市のよいところを広く発信する。

公共施設予約システムとは

Q 公共施設予約システムは、どのような仕組みか、地元優先か。

A 公共施設がインターネットで予約できるもの。これまでの受付ルールは変更せず、インターネット予約は通常の予約のおおむね7日後からできる。地元優先に配慮した仕組みである。

リニア基金の必要額は

Q リニア中央新幹線飯田駅整備推進基金積立金は、27年度に1億円積み立てて13億円となるが必要額をどう考えているか。

A 27年度に駅周辺に関する具体的な整備基本計画の策定を経て必要額を算定したい。

リニア推進及びマイナンバー制度に反対

リニア推進事業及びマイナンバー制度導入に係る経費が予算案に含まれることから、反対の立場で討論がありました。

★反対討論

リニア中央新幹線整備計画においては、安全・安心の確保が何より優先されるべきだが、市民の不安が増大している現状では、認めることができない。また、社会保障・番号制度、いわゆるマイナンバー制度は、情報の流失などの危険があり、認めることができない。
採決の結果、賛成多数で可決しました。

請願・陳情審査 市民の願いはどうなった

請願第1号

★請願者

佐藤 功氏

■慎重な審査の結果

「不採択」としました。

★請願の趣旨

国に対し、集団的自衛権行使容認の閣議決定を撤回し、閣議決定に基づく法整備を

行わないよう求める意見書を提出願いたい。

★委員会での主な意見

○法制化は、国を越えて誰しもが平和的に生存していける国際関係を築いていくことの障害となる。閣議決定に基づく法整備を行わない請願は、採択すべき。

○東アジアの安全保障は、集団的自衛権の行使をもって維持しなければならぬ事態である。現在の世界情勢を判断した上で、こうした法整備は必要であり、不採択とすべき。

平成26年陳情第9号

平成26年第4回定例会から継続審査となっていた陳情を審査しました。

★陳情者

木村 正哲氏 ほか1人

■慎重な審査の結果

「不採択」としました。

★陳情の趣旨

国に対し、人種差別を扇動するヘイトスピーチを禁止し処罰する法律の制定を求める意見書を提出願いたい。

★委員会での主な意見

○人間の尊厳を侵す行為としてのヘイトスピーチを規制する法制化は必要であり、採択すべき。

○この陳情は特定な団体、民族に固執しており、この陳情の採択は、日本におけるヘイトスピーチを認めることとなり、不採択とすべき。

ヘイトスピーチに関する意見書の提出

「ヘイトスピーチ対策について法整備を含む強化策を求める意見書の提出について」の動議が委員から提出され、全員一致で可決されました。

意見書案は本会議でも可決され、国の関係機関に提出しました。

社会文教委員会

2月25日、3月10日及び11日に委員会を開催しました。委員会での審査の様子を紹介します。

議案第17号

飯田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について

議案第68号

平成27年度飯田市介護保険特別会計予算(案)

案件の概要

第6期介護保険事業計画期間における第1号被保険者の介護保険料を12・77パーセント引き上げる条例改正及びそれらに基づく27年度の予算案

■この2件は介護保険料の改正に関し関連があるため、あわせて審査しました。

介護保険料増の要因となる事業等の内容は

Q 介護保険料の増は、施設整備に伴う給付費の増、地域支援事業、介護予防事業の実施による増だと思いが、その内容は。

A 第6期期間中に特別養護老人ホーム等の増床により、施設介護が増え、給付費が増となる。また、制度改正により地域支援事業の実施が増となるほか、現在5千万円程度の介護予防事業をさらに増額し、充実させる。

最高割合を支払者についての考えは

Q 低所得者対策として、減額となる家庭があることは大事だが、最高割合の2.0の段階の保険料を支払う者には、戸惑いもあると思う。市の考えは。

A 保険制度であり、皆で支えあうのが基本であるが、最高割合を過度に設定す

るのも無理がある。そこで今回は財源を確保するため、最高割合の段階数を2つ増やし、現役世代が負担する保険料とのバランスを加味し、所得に応じて負担いただくことが適当であると判断した。

自由討議の実施

■市民生活に特に影響がある案件であるため、質疑の途中で議員間の自由討議を行いました。

★論点

大幅な引き上げを抑えるには27年度予算案の基礎となる第6期介護保険事業計画を修正して給付費を抑えるか、介護保険料の軽減を行わず国の標準設定に変更して上昇率を低減させるかであるとの考えが示され、これを論点として討議を行いました。

★自由討議での主な発言

○施設整備については、人口減少を見据え、新たに作らないという選択肢もあるが、市民の声を聞く限り飯田市では新規の整備が必要である。給付費の増となる予防事業については、改善の余地はあるが、ここに重点を置いて取り組むしかないと思える。

○施設は不足していると思うが、充足のピークも来るので、運用を工夫すべきではないか。また、介護予防事業費が増となれば、介護保険料も増となる。予防事業の効率化とその効果について検証が必要である。○65歳以上の人数が増える中で、負担できずの方に応分の負担をお願いすることは、一つの方向だと考える。12・77パーセントの

引き上げは、何とか市民の理解を得られると思う。

■質疑の後、賛成、反対それぞれの立場で討議がありました。

★反対討議

これ以上の引き上げは負担の限界である。負担が自然に増えていく制度を前提とすることにも疑問がある。一般会計から法定外の繰り入れを行うことにより介護保険料の引き下げをすべきであり、反対。

★賛成討論

市民感情からみれば重い決断となるが、事業を行うために、財源を考えた場合、引き上げはやむを得ない。低所得者及び高所得者の負担に配慮がされており、賛成。

■採決の結果、賛成多数で可決しました。

附帯決議を可決

■議案第68号可決後に、介護予防事業などの効果分析とそれを改善に生かす仕組みづくりなどを求める内容の、この議案に対する附帯決議が委員から提案され、全会一致で可決されました。

議案第74号

平成27年度飯田市介護老人保健施設事業特別会計予算(案)

一般会計からの繰り入れ増の理由は

Q 一般会計からの繰入金金が26年度に比べ、増額となった理由は。また、今後26年度当初予算では、介護報酬への消費税増税分の上乗せを3パーセントと見込んだが、実際はそうならなかった。また27年度から介護報酬が減額されるため、不足について繰り入れが必要となるが、額も運営上、繰り入れが必要となるが、額は介護報酬額等の動向により変わってくる。

A 26年度当初予算では、介護報酬への消費税増税分の上乗せを3パーセントと見込んだが、実際はそうならなかった。また27年度から介護報酬が減額されるため、不足について繰り入れが必要となるが、額は運営上、繰り入れが必要となるが、額は介護報酬額等の動向により変わってくる。

議案第65号

平成27年度飯田市一般会計予算(案)

生活困窮家庭の子どもに対する学習支援事業は実施しないか

Q 生活困窮者自立支援法に規定のある任意事業の一つに生活困窮家庭の子どもに対する学習支援事業があるが、27年度は実施しないか。

A 学習状態の実態把握、地理的、地形的な観点から実施場所の検討が必要など、多くの課題があるため、27年度は実施しない。

恒川遺跡群保存活用事業における保存活用計画の期間等は

Q 恒川遺跡群保存活用事業費について、保存管理計画を策定することのことが、計画期間はどのくらいか。また、計画策定にあたり、地元は関与しているか。

A 整備活用に関しては当面10年間の計画となるが、より長期的な視点からの方針も含んだ内容となる。現在、専門委員会と原案を策定しているが、本委員会には座光寺地域自治会からの推薦で2人が参加している。原案策定後は、地域自治会や地域協議会への説明を行うよう計画している。

体育施設の利用は市民のニーズを満たしているか

Q 市民から体育施設利用に際し、なかなか会場がとれないとの話をよく聞く。市は施設が足りているとの認識か、それとも運用上の問題か。使用の実態と考え方は。

A 身近に使える体育施設の数量的な充足度は高いと考える。ただ、団体が使用を希望する時期がどうしても重なってしまっている状況であり、団体間で調整していただいている状況である。希望する時に、希望する施設を使用できないことが、施設が足りないととの声につながっていると考える。

産業建設委員会

2月25日、3月12日及び13日に委員会を開催しました。委員会での審査の様子を紹介します。

議案第38号

公の施設の指定管理者の指定について
(飯田市保健休養施設)

案件の概要
飯田市保健休養施設の指定管理者を平成27年度から3年間、飯田観光協会とする。

指定管理の期間の設定の理由は

Q 指定管理者による管理の期間は通常5年間が多いが、今回3年間とした理由は何か。

A この沢城湖周辺の施設のあり方については、関係者で議論を深め検討いただくよう、相手方も同意の上で、ひとつの区切りとして、指定期間を3年間とした。

議案第64号

平成26年度飯田市各財産区会計補正予算(第1号)案

9百万円を超える予算減の原因は何か

Q 分収造林業務の減により、9百万円を超える予算減となったようだが、原因は何か。

A 国から独立行政法人森林総合研究所への予算が減ったことにより、森林総合研究所との分収造林業務委託が減になったことが原因である。

議案第77号

平成27年度飯田市水道事業会計予算(案)

水道事業の安定した経営は

Q 水道料金の収入減が見込まれる中で、支出は増加しているが、なぜか。また、次年度以降も、水道企業として安定した経営はできるか。

A 経費節減に努めているが、維持管理費の増加、特に電気料上昇による経費増加は避けられない。現在の水道料金体系等でも、平成33年までは、応分の確保ができる見込みで、しばらくは、安定的な経営ができる。

議案第53号

平成26年度飯田市一般会計補正予算(第7号)案

プレミアム商品券による経済効果の見込みはどの程度か

Q プレミアム商品券による経済効果をどの程度と見込んでいるか。

A 具体的な経済効果の算出は困難であるが、消費予定額は3億1千万円余であり、消費の喚起の一助となることを期待している。利用者、事業者両者にアンケートを行い、効果の検証をしたい。

議案第54号

平成26年度飯田市一般会計補正予算(第8号)案

前倒しした事業の28年度の実施は

Q 国で地方創生の交付金が補正予算化されたことにより、27年度に新規で取り組む予定の事業を26年度に前倒して予算化したとのことだが、引き続き28年度以降も実施していくか。

A いずれも27年度の当初予算として組立てを行った事業であり、必要な事業について、継続を含めその時期に判断をしたい。

地域で働く人材の確保及び育成は

Q 市の産業全体を見渡し、それぞれの業界で、地域で働く人材の確保、育成を行う必要があると考えるが、どうか。

A 地域経済活性化プログラムの作成過程においても、各業界から人材の確保、育成について課題が寄せられている。課題として認識し、検討を進めていきたい。

観光広報ビデオの活用方法は

Q 観光広報用ビデオを作成し、東京方面でPRを予定しているとのことだが、具体的に、どのように活用するか。

A リニア中央新幹線につながる品川区を足掛かりに、首都圏に向けて広めていきたい。ビデオは、品川ケーブルテレビの区民チャンネルでの放送、観光協会の物産展、県の銀座NAGANOのイベント等での上映を想定している。

議案第65号

平成27年度飯田市一般会計予算(案)

新規就農者に対する支援の内容は

Q 新規就農者に対し行う支援の具体的な内容は。

A 新規就農者に対し、単身者は百50万円、夫婦では2百25万円の補助金を最長で5年間支給する。

有効な補助金の交付先の検証は

Q 飯田の木の家を建てるプロジェクト事業は、補助金交付先が、建築主、工務店、設計事務所と3か所だが、どこに働きかけるのが有効か検証したか。

A 26年度に行ったアンケート結果では、事業周知については工務店からの働きかけが多いことがわかった。しかし、費用負担が大きい建築主に大きなメリットがあることが、事業推進につながることも考えられるので、今後検討を続けたい。

天龍峡温泉交流館の改修のコンセプト及び進め方はどうか。

Q 天龍峡温泉交流館はどのようなコンセプトを持って改修を行うか。指定管理者や地元の意見を聞き、十分な検討をする必要があると考えるが、どのように進めていく予定か。

A 現時点では、改修の内容が決まっていない。まずは、天龍峡を訪れた観光客への聞き取り調査結果も参考に、27年度の前半で、地元の意見を伺い、年度末を目途に実施設計を進めたい。

■質疑の後、議案第65号に対して反対の立場から討論がありました。

★反対討論

J R東海が行うリニア中央新幹線の工事に対し、国の認可が下りたが、市民の不安も大きい事業であり、関連予算を計上する当初予算案について、反対。

■採決の結果、賛成多数で可決しました。

リニア推進特別委員会

2月5日及び3月16日に委員会を開催しました。委員会での質疑等の様子を紹介します。

◆第3回リニア駅周辺整備基本構想検討会議について説明があり、内容について協議をしました。

Q 駅周辺駐車場の整備に関し、リニア開業後の予想乗降客数などから、整備台数を750台とするとのことだが、予想乗降客数が過大となっていないか。

A 県の総合交通ビジョンでは1日当たり6千8百人を、市の推計でも6千9百人を見込んでいます。試算は県の推計を基にしており、専門的な委員も含めた検討の中で、一定の理解をいただいている。乗降客数は、これからの地域づくり等により変化していくものと考えている。

Q 駅周辺整備の駐車場や道路などの整備の手法として、様々な事業の導入を検討していくとの説明があったが、区画整理事業も具体的に検討をしていくか。

A 現在は具体的な事業を決定する段階ではないが、地域の現状や時間的制約、またリニア本体工事が直接買収であるなどのことから、区画整理事業の導入は難しい。

Q 観光資源の発掘、強化に関し駅周辺の基本構想を掲げるに当たっては住民が携わるとの点も盛り込むことはできないか。

A 観光資源の発掘については、今までの会議でも様々な意見が出ている。観光客をいかに増やしていくか、そのために何が必要かをしっかりと議論する必要がある。

◆第4回リニア駅周辺整備基本構想検討会議及びリニア駅周辺整備基本構想(素案)について説明があり、内容について協議をしました。

Q 駅周辺整備を検討する範囲として、7.8ヘクタールの区画が示されたが、今後どのような手順で、用途指定や環境などに関した整備を検討していくか。

A 機能の議論から、用途指定の議論に進んでいく。景観についても、地区ごとに検討し、地域の協議を進める中で、景観から環境への議論を深め、全体の機能の議論につなげていきたい。

Q 市は、新たな市街地を、拡散的に形成しないとの方針であるが、外部からの開発行為に対し、緑の基本計画などで、土地利用の抑制が行えるか。

A 現在は、条例により、開発行為の一定の監視ができています。今後、緑の基本計画の地域別計画が必要だが、この計画で開発行為を抑制するのは難しい。議論の深まりを見て、用途指定が必要と考えている。

Q 駅舎、駅周辺、スマートIC、アクセス道路、国道13号等の整備が始まるが、地元に対し、整備の全体像を示したうえで、協議を進める必要があると考えるかどうか。

A できる限り早い時期に全体像を示したい。また、事業主体は、J・R東海、県、市など別々だが、これからは、市でできる限り調整して地元を示す努力をしたい。

議員研修を行いました

平成27年1月30日に、県文化センターのホールで飯伊市町村議員研修会を開催しました。

この研修会は、飯田市議会が下伊那郡内の町村そして伊那市・駒ヶ根市の議会にも呼びかけて行ったもので、約200人の参加がありました。

内容は、信州首都圏総合活動拠点「銀座NAGANO～しあわせ信州シェアスペース～」所長の熊谷晃氏を講師に迎え、「アンテナショップからブランド創造拠点へ信州ブランド戦略と銀座NAGANO」と題した講演を聴くものでした。

ブランドについての考え方、長野県の信州ブランドへの取り組みなどについて伺い、リニア中央新幹線開通を見据えたブランドづくりにもヒントをいただきました。



講演を行う熊谷所長

政策討論会を実施しました



1月30日に開催した政策討論会

平成27年1月30日及び2月2日に、政策討論会を行いました。

社会文教委員会からの発議で、次の議題について協議を行いました。

○1月30日 市長に対する「だれもが元気で長生きできるまちを目指して～一人ひとりの高齢期を見据えて～」の政策提言の案

○2月2日 教育委員会に対する「地域で子どもを育てるには 飯田らしい小中連携・一貫教育の推進にあたって」の政策提言の案

いずれも社会文教委員会が議会報告会での市民を交えた意見交換、視察などを経て研究を行ってきた事項に関するもので、討論会では、提言案の細部にもわたる活発な意見交換がなされました。

出された意見は再度の委員会での協議を経て全員協議会でまとめられ、3月20日の政策提言につながりました。

議員紹介

議員の人となりなどを議員自らが紹介します。(議席順に掲載)



市民の願い 「菱田春草生誕地公園」が完成

ふくざわ きよし
福沢 清

飯田を代表する偉人「菱田春草」生誕の地、仲ノ町に公園が3月に完成しました。

最近まで春草の生誕地だとわかるのは立札だけでした。小学校から高校まで毎日のようにこの場所を通りながら「全国的に有名な春草誕生の地を整備ができないか」と考えていました。

平成22年から地元を中心として署名活動、募金活動、春草ゆかりの映画「天心」の上映活動、公園ができるまで「ひまわり」などを植える取り組みが行われました。この春、子供のころからの私の想いが叶い立派な公園が完成しました。

形を現した公園に魂を入れるよう地元に住む一人として「春草」を語り継ぐ人、飯田の歴史に興味を持つ人が増えるよう努めていきたいと思ひます。春草が日本を代表する芸術家ということは勿論、この公園ができるまでの物語を伝えていくことも大切なことだと思ひます。またこの公園を活かしたまちづくりが楽しみです。

市民の皆さん、私たちの“心のふるさと”として1度この公園を訪れてみてはいかがでしょうか。



卒業式

ごとう そういち
後藤 荘一

この原稿を書いている頃は、卒業式(卒業証書授与式)と呼ばれ、出席している時期である。保育園、小・中学校それぞれ感動的な時間を過ごさせていただいている。

最初に旭ヶ丘中学校の卒業式があり、そこの校歌を歌うとき彼らのハーモニーがいつもすばらしく、歌詞とも相まって毎年感動を覚えるものである。

次に伊賀良小学校、保護者の方の謝辞には毎年思いが込められていて、今年はお父さんがおこなったが、入学から今日までの父親が見た子どもの姿を語り、お母さん達のとはまた違った味があり、式を引き立てた。知り合いの子が、ちょうど卒業式で、私も出席することを伝えると、孫を見守るようにと言われ、年を感じる瞬間になってしまった。

保育園はいつも保育士さんから泣きだし、それがお母さん達にうつり、ついつい私も涙腺がゆるんでしまう。なぜかいつもあどけない場面ばかりなのだけれど感動して、ハンカチが必要なのが保育園の卒園式である(泣笑)。

市議会ウォッチング



平成27年第1回定例会を傍聴された方からアンケートで寄せられた御意見等を紹介しします。

◇議場が新しくなり、初めて見学させていただいた。対面式の議席は以前と違いすばらしい展開と思つ。

◇議会中継では質問内容のほか議員の関心度のチェックも楽しみにしている。質問中にもつづほかの議員の様子を映しあつ。

◇一般質問では通告があるので答弁を用意されているが、下を向いて読みつばなしの方もみえる。書いたものを見てもよいが頼りすぎはよくない。話す感じで、時々相手の顔を見るようにしたい。

本会議、委員会とも個人、団体で自由に傍聴いただけます。ぜひ傍聴にお越しく下さい。事前予約は要りませんが、団体等大勢での傍聴の際は事前に議会事務局に連絡をお願いします。

議会中継をしています

本会議の様子は飯田ケーブルテレビデジタル714chで中継しているほか、一般質問の様子はユーストリーム(インターネットによるオンライン動画配信サービス)で中継しています。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.city.iida.lg.jp/>

編集後記

広報広聴委員会で、松尾小学校に「出前交流授業」に伺いました。議会のこと、選挙の大切さ、飯田市のことなどを、6年生の皆さんにお伝えしてきました。

学校に伺っての「出前授業」は、初めての試みでもあり、不安を抱いての取り組みでした。しかし、その心配は杞憂(きゆう)に終わり、素晴らしい出会いができました。飯田の良さを再確認し、「飯田に住みたい」「帰って来たい」と思う子どもたちが増えることを願っています。

任期4年のうち、今回の市議会だよりが、前期のメンバーでの締めくくりの号となります。若い世代にも親しまれる市議会であるよう、今後も努力を重ねて参ります。

議会の動き(予定)

- 次回平成27年第2回(6月)定例会は6月2日(火)開会です。
- 次回定例会に向けた議会への請願・陳情の締め切りは5月27日(水)午後5時です。

広報広聴委員会

委員長	木下 容子	副委員長	湊 猛
委員	木下 徳康		熊谷 泰人
	新井信一郎		古川 仁
			福沢 清
			村松まり子